



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年1月29日

上場会社名 トランス・コスモス株式会社
 コード番号 9715 URL <https://www.trans-cosmos.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO (氏名) 奥田 昌孝
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員本社管理総括 経理財務本部長 (氏名) 野口 誠
 四半期報告書提出予定日 2021年2月5日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 050-1748-0265

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	246,897	7.3	13,223	69.6	13,568	76.2	8,625	41.0
2020年3月期第3四半期	230,092	10.3	7,794	169.5	7,700	142.4	6,116	2.0

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 11,184百万円 (179.1%) 2020年3月期第3四半期 4,007百万円 (52.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	207.98	
2020年3月期第3四半期	147.48	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	165,119	90,927	51.2	2,037.40
2020年3月期	143,985	77,969	51.5	1,788.95

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 84,500百万円 2020年3月期 74,196百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		46.00	46.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年3月期の配当予想は未定であります。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、【添付資料】P.3'(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明に記載しております。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	48,794,046 株	2020年3月期	48,794,046 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	7,319,394 株	2020年3月期	7,319,064 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	41,474,823 株	2020年3月期3Q	41,475,165 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・決算補足説明資料は2021年1月29日(金)に当社ウェブサイトに掲載します。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症に伴い、外出自粛や休業要請、緊急事態宣言の発出などの影響により、個人消費や企業活動が著しく制限され、急速に景気が悪化しました。一部で持ち直しの動きがみられたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大懸念が再び高まるなど収束の見通しが立たない中、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが展開するサービスを取り巻く環境は、引き続き、業務の効率化やコスト競争力の強化、売上拡大などに繋がるアウトソーシングサービスといった底堅い需要に加え、コロナ禍において、急速に普及しつつあるテレワークをはじめとした新たな生活様式に対応するサービスへのニーズが高まりつつあります。

このような状況の中、当社グループは、引き続き、デジタルトランスフォーメーションパートナーとして企業の経営、事業の変革を支援するDEC・BPOサービスを積極的に展開し、受注の増加に繋がりました。また、国内外におけるサービスの競争力強化や、新たな顧客ニーズに対応すべく、引き続きデジタル技術を活用したサービスの展開やサービス体制・組織の強化などに取り組みました。

具体的には、国内においては、Hero Towers Limitedが開発・提供する、欧米No.1オンライン対面接客ソリューション「HERO」のサービス提供を国内独占で開始しました。「HERO」はショップスタッフなど店舗側の担当者がオンラインショッピングの現場の接客をすることを可能にするバーチャル接客ツールで、店舗のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進を支援していきます。また、AIとヒトのコラボレーションによるデータ活用型マルチチャネルアウトバウンドの提供を開始しました。人によるヒューマンタッチの良さを活かしながらデジタルとの融合で獲得率を改善させるオペレーションを実現していきます。さらに、AIチャットボットの品質を調査する「チャットボット AI-IQ診断」の提供を開始しました。企業のチャットボットが本当に役立っているかを診断し、CX（顧客体験価値）の向上を支援していきます。一方、サービス体制・組織強化の取り組みとしては、コンタクトセンター向け音声認識ソリューション「transpeech（トランススピーチ）」をバージョンアップし、「transpeech 2.0（トランススピーチ2.0）」をリリースしました。これまでの音声認識、感情分析、対話要約の機能に加え、新開発した「品質管理プラットフォーム」と、AIが自動でコンタクトセンターの対応をチェックする「AI defender」自動連携の機能を加えた5つの機能で、コンタクトセンター運用の大幅な効率化と品質向上を実現していきます。また、当社のデジタルマーケティング部門を集結させた新オフィス「渋谷ファーストタワー」を開設しました。新オフィスは、社員の健康を第一に、固定概念にとらわれない、新たな発想と創造力を引き出す空間として整備し、また、コロナ禍で在宅勤務が基本となる現状においても、在宅とオフィスとがスムーズにつながり、安心して通うことができる空間づくりを意識したオフィスとなっています。

海外においては、中国の子会社が在宅コンタクトセンターサービスの提供を開始しました。クラウドコンタクトセンターとクラウド型デスクトップによる在宅勤務ソリューションを提供し、コンタクトセンターのファシリティコスト削減や繁忙期・BCPの対応をサポートします。台湾の子会社においても在宅コンタクトセンターサービスの提供を開始しています。また、ASEAN最大級のECモール「Lazada」より、Lazada向けサービスの実績が高く評価され、パートナーとして認定を受けました。今後、認定パートナーとして、ASEAN向けサービスのさらなる強化に努めていきます。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高246,897百万円となり前年同期比7.3%の増収となりました。利益につきましては、売上高の増加および収益性の改善などにより、営業利益は13,223百万円となり前年同期比69.6%の増益、経常利益は13,568百万円となり前年同期比76.2%の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,625百万円となり前年同期比41.0%の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(単体サービス)

当社におけるアウトソーシングサービスの需要拡大などにより、売上高は178,551百万円と前年同期比5.3%の増収となりました。セグメント利益は、既存の大型業務の採算性改善や大型スポット業務の獲得などにより、8,767百万円と前年同期比48.2%の増益となりました。

(国内関係会社)

国内関係会社につきましては、上場子会社を中心に受注が好調に推移したことや、主に前第3四半期連結会計期間から一部子会社を連結の範囲に含めた影響などにより、売上高は28,976百万円と前年同期比42.5%の増収となり、セグメント利益につきましては、一部上場子会社の収益性改善などにより2,705百万円と前年同期比138.5%の増益となりました。

(海外関係会社)

海外関係会社につきましては、主に東南アジアにおける受注の増加により、売上高は48,661百万円と前年同期比2.3%の増収となりました。セグメント利益については、中国、韓国子会社を中心に収益性が改善し、1,774百万円と前年同期比134.4%の増益となりました。

なお、セグメント利益につきましては、四半期連結損益計算書における営業利益をベースにしております。

(新型コロナウイルス感染拡大に関する当社グループへの影響)

新型コロナウイルス感染拡大に関する当社グループへの影響は、依然として不確実性が高いものの、外出やイベント・キャンペーンの自粛など行政機関からの指示・要請や、感染拡大防止、従業員の安全確保を最優先とした対策などに伴い、新規案件の減少や一部既存業務の縮小、オペレーションセンターの一時的な稼働率低下といった影響が発生しつつあります。その一方で、行政機関をはじめとした新型コロナウイルス対策関連業務の支援に繋がるサービスや、企業の業務プロセスのデジタルシフト支援を通じた在宅ワークの普及促進、事業継続、ECをはじめとする非接触販売チャネルの拡大などを支援するサービスなどにおいて引き合いが増加しています。

引き続き、社内外への感染拡大の防止と従業員ひとりひとりの安全確保を最優先とした上で、当社が担っている社会的責任をできる限り果たしていきます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて21,134百万円増加し、165,119百万円となりました。主な要因は、当社における借入金の増加による「現金及び預金」の増加や「受取手形及び売掛金」の増加などです。

負債の部につきましては、「1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債」の償還による減少がありましたが、当社における新規借入による「長期借入金」の増加などにより、前連結会計年度末に比べて8,177百万円増加し、74,192百万円となりました。

純資産の部につきましては、12,957百万円増加し、90,927百万円となり、自己資本比率は51.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期については、いまだ新型コロナウイルス感染の収束時期や感染拡大による影響が全く見通せず不透明感の強い状況にありますが、引き続きお客様企業の売上拡大・コスト最適化といったニーズに対し、より適合したサービスの創出に注力するとともに、アジア市場を中心としたグローバルで事業展開を加速させ、前期実績を上回る業績を確保することを目指します。

なお、当社グループの事業は、あらゆる業種・業界のお客様との取引で成り立っており、変化の激しい経済環境の中、短期的な視点で企業活動の動向を見極めることは大変困難であります。よって、当社グループの2021年3月期連結業績予想については、合理的な算定ができないため記載しておりません。

また新型コロナウイルスの感染拡大の影響が長期化することで、当社グループのオペレーションセンターの閉鎖・縮小、さらなる企業活動の自粛に伴うサービスの需給バランスの崩れなどによって、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	35,012	42,417
受取手形及び売掛金	49,793	53,837
商品及び製品	4,420	5,463
仕掛品	1,088	1,655
貯蔵品	56	161
その他	6,954	8,854
貸倒引当金	△403	△276
流動資産合計	96,922	112,113
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,486	6,251
工具、器具及び備品（純額）	4,390	5,025
土地	825	820
その他（純額）	977	1,262
有形固定資産合計	11,679	13,359
無形固定資産		
のれん	778	1,037
ソフトウェア	2,806	2,797
その他	729	804
無形固定資産合計	4,314	4,639
投資その他の資産		
投資有価証券	7,196	10,960
関係会社株式	5,506	9,384
関係会社出資金	6,092	1,069
繰延税金資産	2,183	2,660
差入保証金	9,289	9,969
その他	1,088	1,249
貸倒引当金	△288	△286
投資その他の資産合計	31,068	35,007
固定資産合計	47,062	53,006
資産合計	143,985	165,119

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	12,808	11,763
短期借入金	3,057	2,118
1年内償還予定の社債	28	28
1年内償還予定の転換社債型 新株予約権付社債	10,007	—
1年内返済予定の長期借入金	83	97
未払金	6,809	6,896
未払費用	14,512	16,666
未払法人税等	3,151	2,953
未払消費税等	4,830	6,393
賞与引当金	4,766	3,030
その他	3,377	4,650
流動負債合計	63,432	54,598
固定負債		
社債	114	96
長期借入金	142	16,277
繰延税金負債	895	1,500
退職給付に係る負債	295	294
その他	1,136	1,424
固定負債合計	2,583	19,594
負債合計	66,015	74,192
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,065	29,065
資本剰余金	17,778	19,361
利益剰余金	41,061	48,079
自己株式	△15,236	△15,237
株主資本合計	72,669	81,269
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,204	5,365
為替換算調整勘定	△1,677	△2,134
その他の包括利益累計額合計	1,527	3,230
新株予約権	3	3
非支配株主持分	3,769	6,423
純資産合計	77,969	90,927
負債純資産合計	143,985	165,119

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	230,092	246,897
売上原価	189,793	198,497
売上総利益	40,299	48,399
販売費及び一般管理費	32,504	35,176
営業利益	7,794	13,223
営業外収益		
受取利息	89	85
受取配当金	18	8
為替差益	31	—
助成金収入	118	653
その他	140	215
営業外収益合計	398	963
営業外費用		
支払利息	40	84
持分法による投資損失	228	304
為替差損	—	15
その他	223	213
営業外費用合計	493	618
経常利益	7,700	13,568
特別利益		
投資有価証券売却益	1,784	107
持分変動利益	10	318
その他	74	186
特別利益合計	1,869	612
特別損失		
固定資産除却損	53	50
減損損失	22	106
持分変動損失	—	160
段階取得に係る差損	47	—
その他	52	62
特別損失合計	175	380
税金等調整前四半期純利益	9,394	13,800
法人税、住民税及び事業税	2,733	4,939
法人税等調整額	175	△633
法人税等合計	2,908	4,306
四半期純利益	6,485	9,494
非支配株主に帰属する四半期純利益	368	868
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,116	8,625

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	6,485	9,494
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△576	2,150
為替換算調整勘定	△1,419	△344
持分法適用会社に対する持分相当額	△481	△116
その他の包括利益合計	△2,477	1,690
四半期包括利益	4,007	11,184
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,682	10,329
非支配株主に係る四半期包括利益	324	855

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	単体 サービス	国内 関係会社	海外 関係会社	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	168,998	17,370	43,723	230,092	—	230,092
セグメント間の内部 売上高または振替高	578	2,959	3,828	7,366	△7,366	—
計	169,577	20,330	47,551	237,459	△7,366	230,092
セグメント利益	5,916	1,134	757	7,808	△13	7,794

(注) 1 セグメント利益の調整額△13百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	単体 サービス	国内 関係会社	海外 関係会社	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	177,613	24,196	45,086	246,897	—	246,897
セグメント間の内部 売上高または振替高	937	4,779	3,575	9,292	△9,292	—
計	178,551	28,976	48,661	256,189	△9,292	246,897
セグメント利益	8,767	2,705	1,774	13,247	△23	13,223

(注) 1 セグメント利益の調整額△23百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。